

第34回院内学術研究発表会

令和4年1月27・28日

1. 新規導入半導体PET/CT装置の使用経験 放射線技術部

天川 善晃 細岡 裕之
塩崎 勝久 山本 悠介
井手 充浩

【目的・背景】

当院では、全国10台目、姫路市内で初の半導体 (SiPM) PET/CT装置 (Biograph Vision) が今回新しく設置され、2021年6月より稼働となった。

日本ではがんの罹患率およびがんによる死が増加を続けており、その早期発見と治療効果判定に不可欠なPET検査の重要性が増している。今や検査精度はもちろんのこと、効率性あるいは被験者が感じる快適性の向上も求められる時代である。Biograph Visionは、これらの条件を満たすべく、半導体を用いたPET検出器での刷新による検出感度と空間分解能を高度化したPET/CT装置である。検出器部が半導体仕様で検出器幅が26cmと長く従来に比べて短時間で広い範囲の高画質な画像が得られるようになり、これまでは10mm程度の大きさが限界とされていた病変検出も5mm程度まで検出できるとされている。また、ガントリ内径は78cmと広く、体格がおおきくてもゆったり感じられる設計で、撮影範囲をミリ単位で決められるため、不必要な範囲を撮像する事もなく、被ばく低減にも配慮しているPET/CT装置である。

本発表では、半導体 (SiPM) PET/CT装置 (Biograph Vision) を使用した当院でのPET/CT検査のながれや使用経験を中心に発表する。

2. 当院における遠隔モニタリングの実態 臨床工学技術課

赤尾 潮美 深井 秀幸
井上 唯姫 山中 大幸
堀田 雄介 田渕 晃成
片山 忠彦 岩崎 翔大
津野田和弥 足立 道伸
平野 雄大 永井 理一
三井 友成

現在、厚生労働省では医療分野の情報化を推進している。その中でも遠隔医療については、2020年度診療報酬改定で『在宅持続陽圧呼吸療法』『心臓ペースメーカ』などの指導管理料において遠隔モニタリング加算ができるようになった。当院では2016年より『在宅持続陽圧呼吸療法』を、2017年より『心臓ペースメーカ』の遠隔モニタリングを開始し、のべ8757件の解析を行った。現在は『在宅持続陽圧呼吸療法』2社 計20名、『心臓ペースメーカ』4社 計310名を遠隔モニタリングしており、月ごとのデータチェック・記載に加えて、毎日異常アラートに対するチェックも行っている。今回は医療機器の遠隔モニタリングをどのように行っているのか、またどのように診療に役立てているのかを紹介する。

3. CT severity scoreが予後予測に有効であった新型コロナウイルス (COVID-19) 肺炎の1例

臨床研修部¹⁾ 同 内科²⁾ 岡山赤十字病院内科³⁾
青江 佳歩¹⁾ 越智 正彦³⁾
森井 和彦²⁾ 松尾 優²⁾